
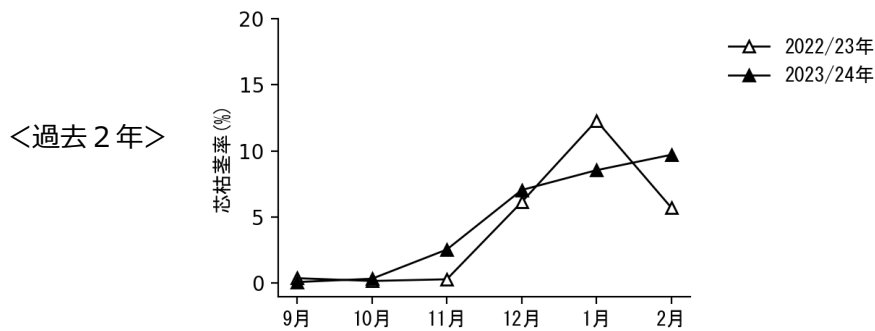
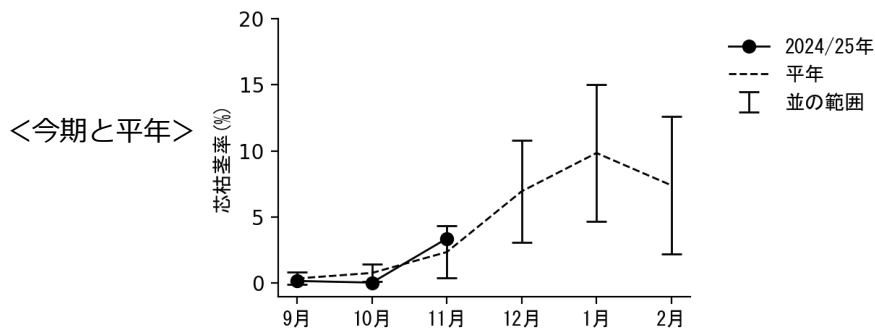


作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↗		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯莖率の推移(夏植え)



- ・発生種：イネヨトウ (95%)、カンシャシクイハマキ (5%)
- ・発生ほ場率66.7% (平年：71.8%)

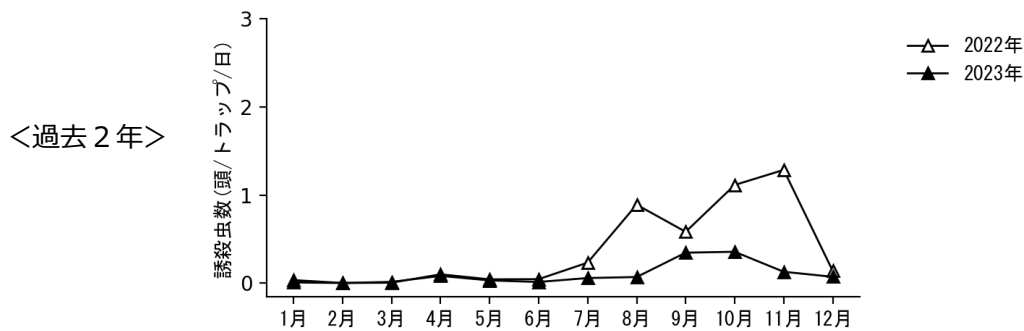
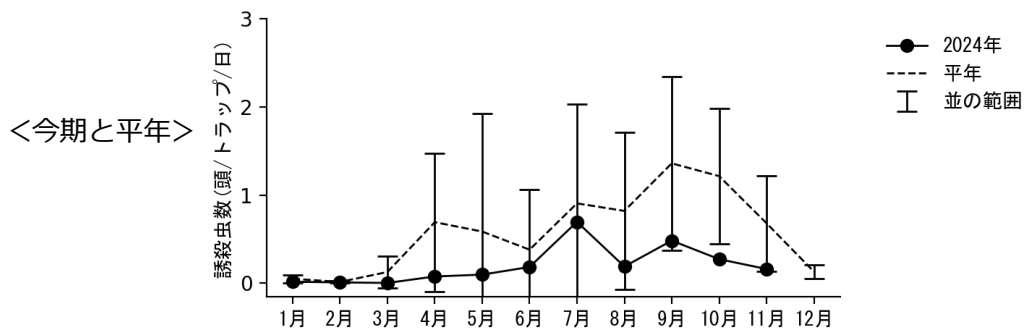
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・莖葉への乳剤等の散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率80.0% (平年 : 92.0%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

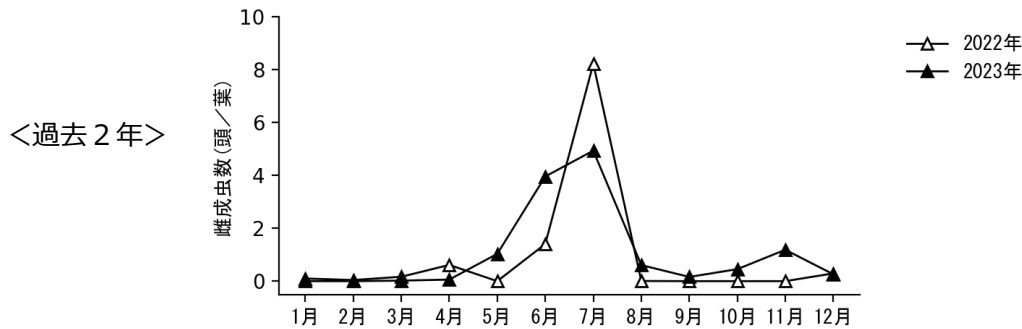
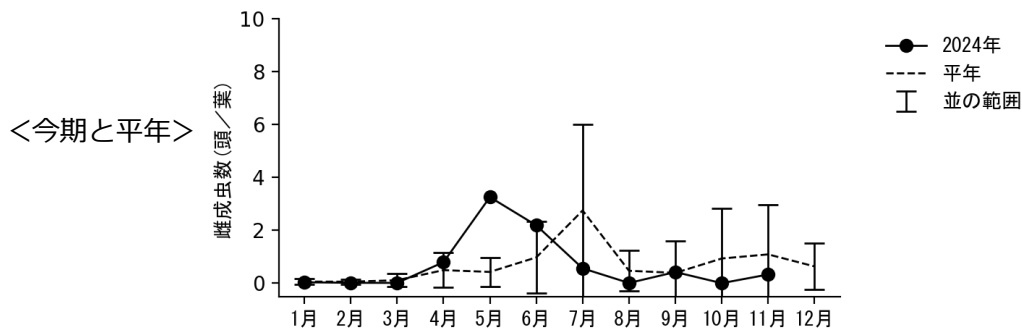


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率40.0% (平年：40.0%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

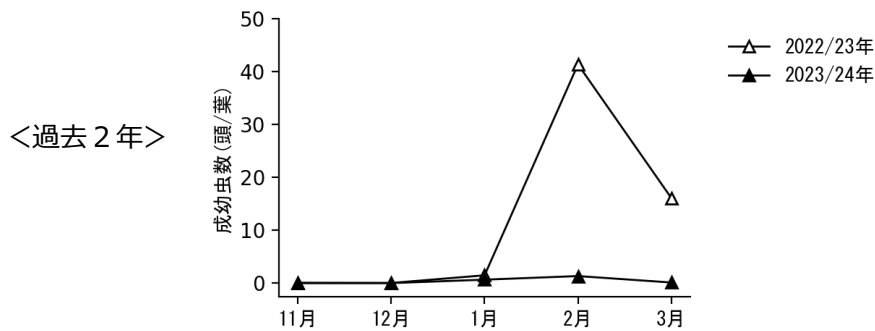
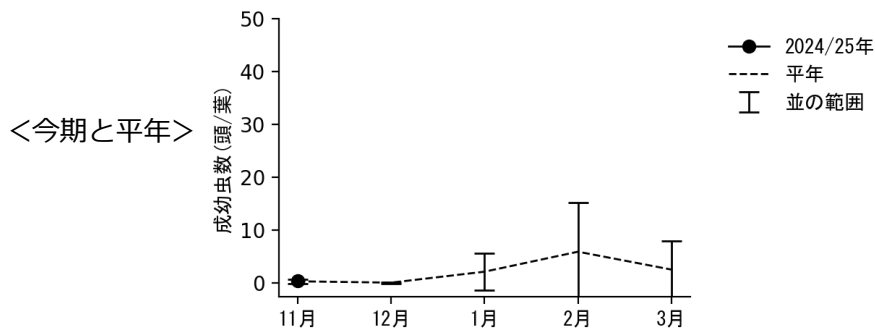


マンゴーツメハダニ

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	① アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率75.0% (平年 : 63.4%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場周辺の雑草除去に努める。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。



無翅虫